

日本移民学会編集委員会編集



第26号
2020.6

移民研究年報

特集 移民と〈トランスナショナル〉

- 今なぜ「トランスナショナル」なのか——日本における移民研究を考える—— 李 里花
- 「トランスナショナル」が問う研究の在り方
——日本移民学会年次大会シンポジウムの議論から—— 徳永 悠
- 現代東アジアにおいて〈トランスナショナル〉を問うことの意義
——日本移民学会編『日本人と海外移住』を起点にして—— 中山 大将
- 境界領域における「移民」と「植民」——近現代北海道史からの視点—— 番匠 健一
- 人びとはどのように海を渡ったのか？——移民船をめぐる課題群—— 根川 幸男
- 2つのトランスナショナル——フィリピン人移民研究からの視点—— 永田 貴聖

論文

- フィリピンの英語学校のトランスナショナルなネットワークと実践
——フィリピンの英語学校はどのように留学生を引きつけているか—— 李 定恩

研究ノート

- 和歌山アメリカ村の地方創生とルーツ・ツーリズム
——移民研究の社会還元に向けて—— 河上 幸子／東 悦子／西山 巨章
- 占領期(1945～52年)におけるブラジル日本人移民二世の帰国支援運動
——高知県における「ブラジル二世クラブ」の結成と展開—— 村中 大樹

書評

- 水野剛也著『有刺鉄線内の市民的自由——日系人戦時集合所と言論・報道統制』 水野 真理子
- 山田亜紀著『ロサンゼルスの新日系移民の文化・生活のエスノグラフィ
——新一世の教育ストラテジーとその多様性』 志賀 恭子
- 渡辺雅子著『韓国立正佼成会の布教と受容』 高橋 典史
- 中山大将著『サハリン残留日本人と戦後日本——樺太住民の境界地域史』 外村 大

新刊紹介

- 徳田剛・二階堂裕子・魁生由美子編著『地方発 外国人住民との地域づくり』 山口 博史
- 小澤智子編著『Japaneseness across the Pacific and Beyond (ジャパニーズネス
は太平洋を越える／超える)』 今野 裕子
- 藤井勝・平井晶子編『外国人移住者と「地方的世界」
——東アジアにみる国際結婚の構造と機能』 木下 昭
- 李盛煥・木村健二・宮本正明編著『近代朝鮮の境界を越えた人びと』 玄 武岩
- 永原陽子編『人々がつなぐ世界史』 小川 真和子
- 浅香幸枝編著『交差する眼差し——ラテンアメリカの多様な世界と日本』
グスターボ メイレレス
- 額賀美紗子・芝野淳一・三浦綾希子編『移民から教育を考える
——子どもたちをとりまくグローバル時代の課題』 山ノ内 裕子

jams 日本移民学会
The Japanese Association for Migration Studies

明石書店